

2023 年度 事業報告

学校運営

概況及び新規事業について

まず最初に国際的に大きな社会危機となった新型コロナウイルス感染症が落ち着きを見せた状況の中、2023 年度入学式を 2023 年 4 月6日に従来通り無事に開催し23年度の事業を開催できたのも一重に皆様の日頃よりのご支援ご協力のおかげと思い感謝いたしております。

その後 COVID19 が第5 類に再分類された5月8日以降、本学内においてもマスクを外す職員・学生が徐々に増えてきましたが未だ後を絶たないコロナに感染した学生には、ハイブリッド授業で対応しております。しかし、2023 年8月以降は感染状況も次第に落ち着きを取り戻しております。

それでも、多くの教育機関がパンデミックの後遺症として在校生との直接的なコミュニケーションやオープンキャンパス等の広報及び募集事業などの対外事業に問題を抱えております。そのみでなく当校の入学者数の減少は少子高齢化という社会的な課題に加えてパンデミックによって加速したコミュニケーションインフラや運営構造の時代的なアプローチに対する対応が遅れていることも当校の問題として顕在化していることも事実であり、深く反省するところであります。

しかし、状況を看過していたわけではありません。前理事長が掲げた「学生品質の向上」の新しいバージョンとして「学校品質の向上」を掲げ、22年に理事長就任時よりすでに内在していたいくつかの課題解消プログラムを23年度に実現いたしました。これも皆様のご支援と学校スタッフの勤労によるものと深く感謝いたしております。

23年度中に行った主な改善点と事業は以下の4項目となります。

1. 運営システムの次世代化及びデジタルプロトコルの構築

現在の人材育成において欠くべからざる資質であるデジタルスキルの習得以前に当校のデジタルシステムの導入の遅れは教育機関として近未来的な危機を孕んでおります。昨年のデジタル証明、教務スケジュール等を管理する教務ソフト「キャンパスマジック」に加え23年度内に事務システムのデジタル化を果たす「eValue（イーバリュー）」を導入し事務、教務のスムーズな運営と連携の強化に取り組むとともに教育環境改善とデジタル時代への意識改善を実行し学生教育にも生かすことで、ペーパーレス、SDGS 社会に置いて建設現場において機能する人材育成にも役立てる所存でございます。加えて、福岡県の補助金補助を利用して学校のPC環境も一新し、PC、OSを最新なものいたしました。これにより就職企業のデジタル環境の違いに多様に対応する人材育成にさらなるレベルアップが図れることと思います。

24年度はデジタルシステムのさらなるカスタマイズ、教職員の訓練、学生管理システムのDX化を推し進め将来の事務システムの一部AI化を見据えた準備をしてまいります。

2. 発信力の向上

Z世代以降の若者の情報ネットワークは教示型から摂取型に変化しています。

私たちは彼らが自主的に掲げたフラグにセンシングして彼らが摂取しやすい形に編集した情報を提供しなければなりません。ツールもまた同じです。本年度の学生数が減少している理由の一つはこの発信のリデザインとツールの多様化が欠如していたことは否めません。このこともまた運営メンバー全員が深く反省しなければなりません。その改善のために昨年度HPをリニューアルいたしました。WEB制作者としてコンペ選定した読売新聞の協力を得て情報の再編集とツールの多様化にフィットしたWEBシステムを導入、携帯でもスムーズに閲覧でき5G時代にも問題なくフル稼働できるものとなりました。また、リニューアルに当たってはマーケティング的な視点での基礎分析を行い、他校の事例を参考にしながら福岡建設専門学校独自の魅力再創出を強く意識したものとしております。

3. リアル情報としての学校

学生数の劇的な減少の主因を探る中で現場に立つ教職員に意見を求めたところ、2年前に廃止した学校訪問、奨学金、推薦制度等を指摘する声が内外ともに多かったとの報告を受けました。しかしながら、しっかりした検証もなく全面回帰することは迷走することにつながりかねません。そこで新規事業と評価すべき従来の事業を一時的に並走させることにして、検証期間を設けることにいたしました。

新規事業としては参加数が減少している従来型のオープンキャンパス事業を継続する一方で高校生に直接触れる機会と彼らの興味動向をリサーチするために今後の募集対象として成長が見込まれるセカンドキャリア予備軍も含めた層に向けたカルチャースクール型の実験事業を福岡市都心において実施いたしました。

具体的には9月16日に開催した「未来のための建設フォーラム」プレワークショップでのドローン講座を皮切りに、特別講座「高校生とセカンドキャリアのための建設フォーラム」を、羽部校長をコーディネーターとして計6回実施いたしました。博多駅近くの博多バスターミナルに会場を構え、場所柄もよく毎回満員の盛況で開催されました。

またこの機会に西日本新聞社のご協力で全面広告を通常予算よりも経費のかからない形で掲載いたしました。このような広報機会の創出もまた新規事業の効果と言えるものであります。

4. 労働運営環境の充実

コロナのこともあり退職者と雇用者のバランスが崩れている部分が出ておりましたが、22、23年度において是正を開始し、事務2名、建築学科教員1名を公募

し3名の教職員の配置を完了いたしました。それぞれが即戦力として活躍しております。結果、非常勤講師に頼っておりました学科業務も常勤教師による授業を充実することで学生管理、ケア、コミュニケーションのセンシング力の増加をはたし、今後もコロナ後の学校に対しての信頼を回復、担保していく努力を怠ることのないように邁進する所存です。

24年に入ってから概況としては3月に2023年度卒業式をソラリア西鉄ホテルにおきまして開催することができ、卒業式後には、昨年度より実施しており好評をいただいております各分野の識者のお話を一般にも開放し行う記念講演会を併せて敢行し写真家・映画監督 宮澤正明氏による「美しい日本を写す」ー伊勢神宮式年遷宮に見る日本建築の心ー」と題した記念講演を開催いたしました。式年遷宮時のみ公開される日本建築の粋をその公式写真家である宮澤氏に作品とともに語っていただく貴重な機会となりました。

教務運営につきましては、教室の換気等に気を付けながらも、CAD 演習、測量実習といった演習・実習科目も対面授業で滞りなく実施しております。当初の事業計画通りに授業を実施し、コロナ前の学校生活を取り戻せたように思います。

また、現場見学会では、株式会社松本組様、前田道路株式会社様、麻生コンクリート工業株式会社様のご協力により、対面形式で年間4回実施することができました。

就職状況につきましては、例年通りコラボレーターズ企業説明会を2023年4月、12月の2回実施し、合計12名の学生がコラボレーターズ企業に就職内定することができ、2023年度も就職内定率100%（43名）を継続することができました。

学生募集につきましては、教職員全員で高校訪問を行っております。また新ホームページが開設されスマートフォン対応の見やすいホームページとなりましたので最新情報を分かりやすく知らせることができるようになりました。今後、より一層活用していきたいと思っております。さまざまな試みにもかかわらず入学者が減少したことは非常に残念でございますが、一新強化された各システムを運用拡大しながら来季募集に関しましてはV字回復を目指していきたいと存じます。加えて25年メンテナンスを行っておりませんでした校舎の修繕を昨年度より再開いたしました。これにより教育現場の環境改善が図れるものと思っております。